

2022年2月9日の院内用の資料から抜粋・加筆
(主に医療従事者向け)

オミクロン株 (BA.1)

特徴・検査・治療

2022年3月9日

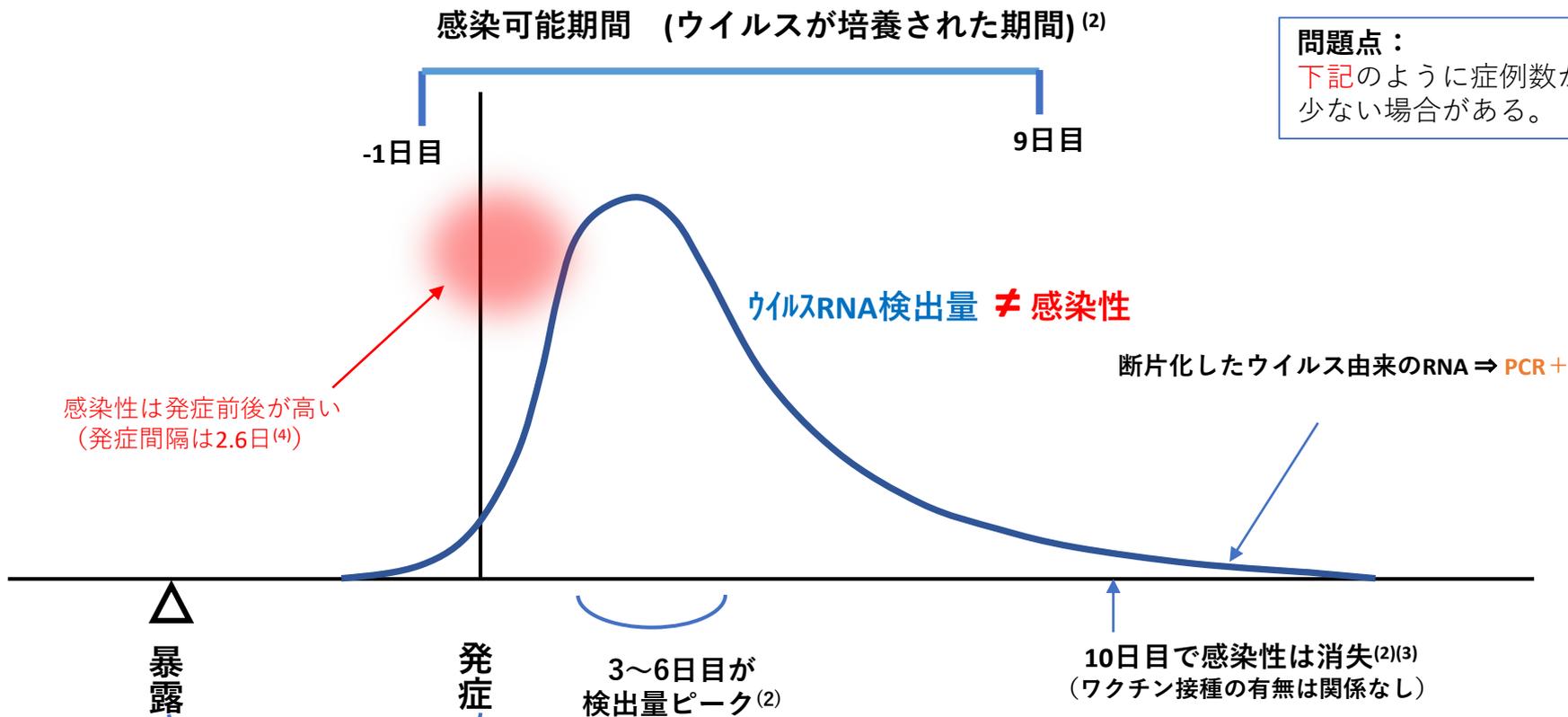
国際医療福祉大学病院

呼吸器内科

荒川 伸人

有症状者

暴露⇒発症⇒感染性消失までの調査結果 (国立感染研)
(筆者がイメージ化)



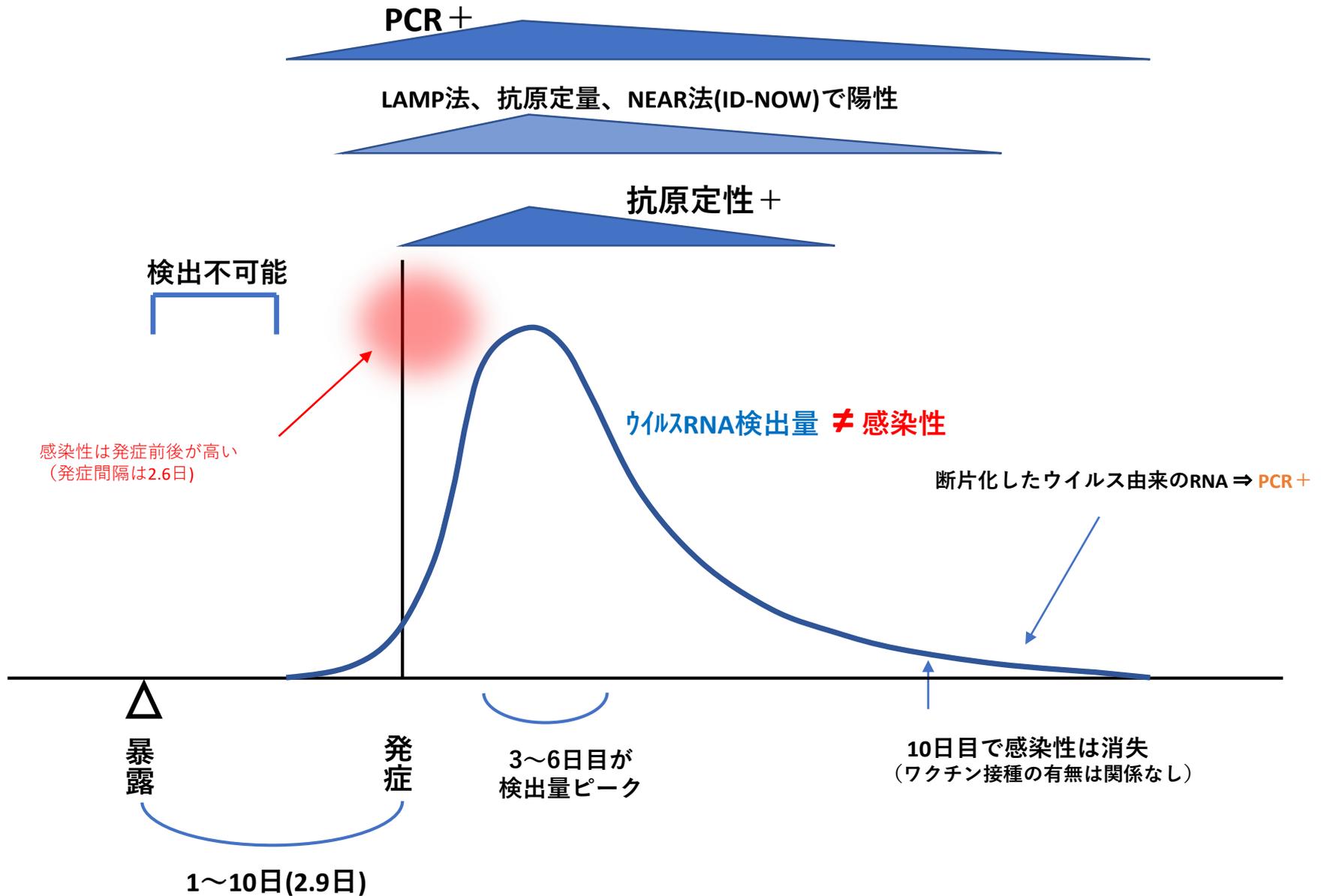
問題点：
下記のように症例数が少ない場合がある。

潜伏期間 2.9日⁽¹⁾
1日までに8.5%
2日までに30%
3日までに53%
6日までに90%
7日までに95%
10日までに99%が発症

- (1) 2022年1月13日 SARS-CoV-2の変異株B.1.1.529系統 (オミクロン株) の潜伏期間の推定: 暫定報告 . . . 113例
- (2) 2022年1月5日 SARS-CoV-2 B.1.1.529系統 (オミクロン株) 感染による新型コロナウイルス感染症の積極的疫学調査 (第1報): 感染性持続期間の検討 . . . 21例
- (3) 2022年1月13日 SARS-CoV-2 B.1.1.529系統 (オミクロン株) 感染による新型コロナウイルス感染症の積極的疫学調査: 新型コロナワクチン未接種者におけるウイルス排出期間 (第2報) . . . 11例
- (4) 2022年1月31日 SARS-CoV-2の変異株B.1.1.529系統 (オミクロン株) の発症間隔の推定: 暫定報告 . . . 30例15ペア

作成者: Nobuhito ARAKAWA

各検査で検出できる範囲のイメージ図

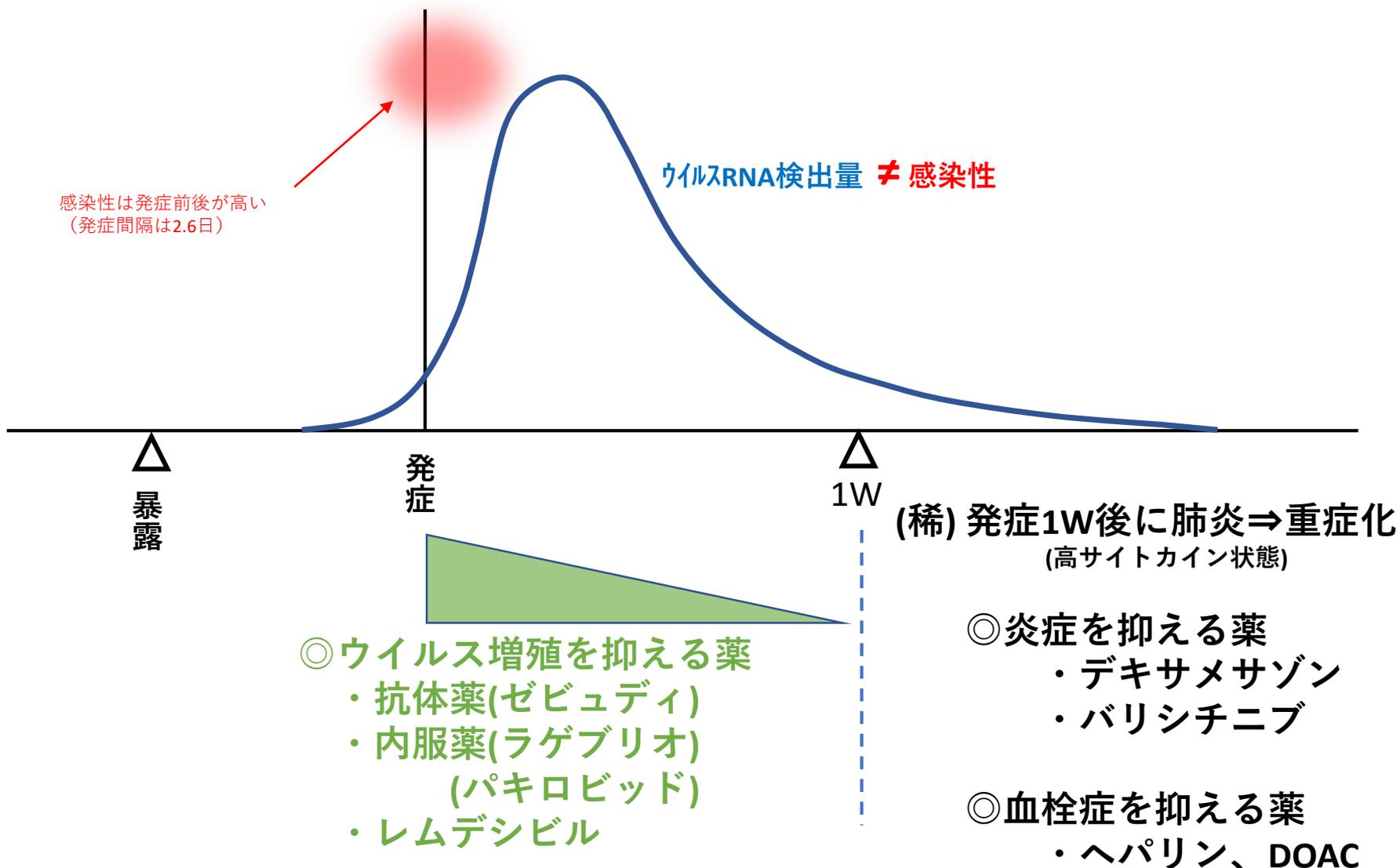


検査選択の基礎知識

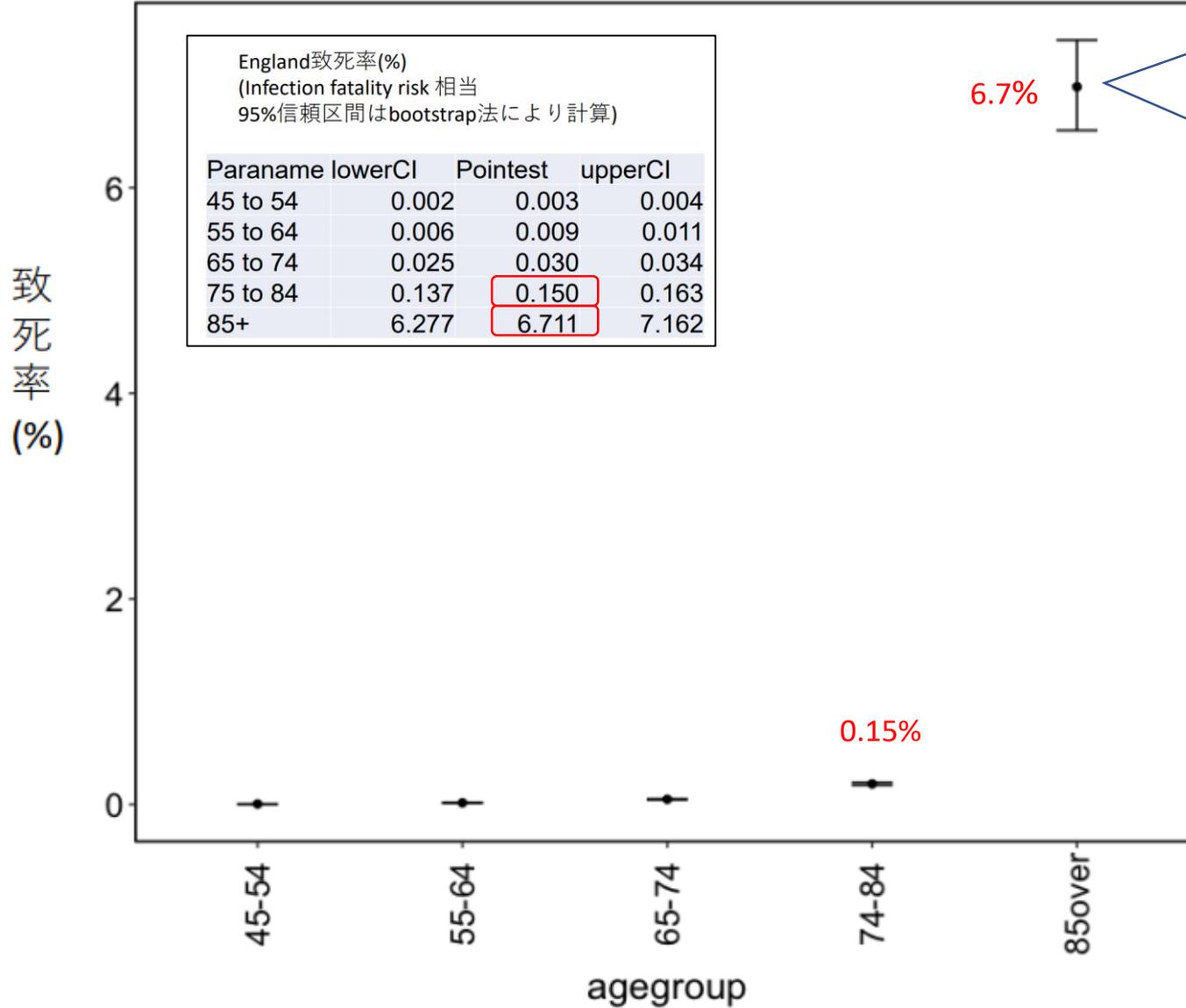
速さの順位	所要時間	検出力と信頼性	その他
1位 抗原定性 (キット)	15分	流行地域の有症者のみ	簡便、どこでもできる
2位 NEAR法(ID-NOW)	15-30分	高い	高コスト、1回1検体
3位 抗原定量(ルミパルス)	60分		検体を並べて順に検査できる
4位 LAMP法	数時間		多くの検体を一括処理
5位 PCR法	半日	ゆるぎない (Gold Standard)	

- ◎抗原定性キット⇒大まかな検査だが、治療薬の早期開始を優先する時に便利。
- ◎その他⇒精度は高いが、時間がかかる。治療より精度を優先する時に使う。

治療薬・・・発症後1週間前後で異なる



特徴 低い致死率



治療薬の数量は限られる。



高齢者に重点的に使うのが効果的

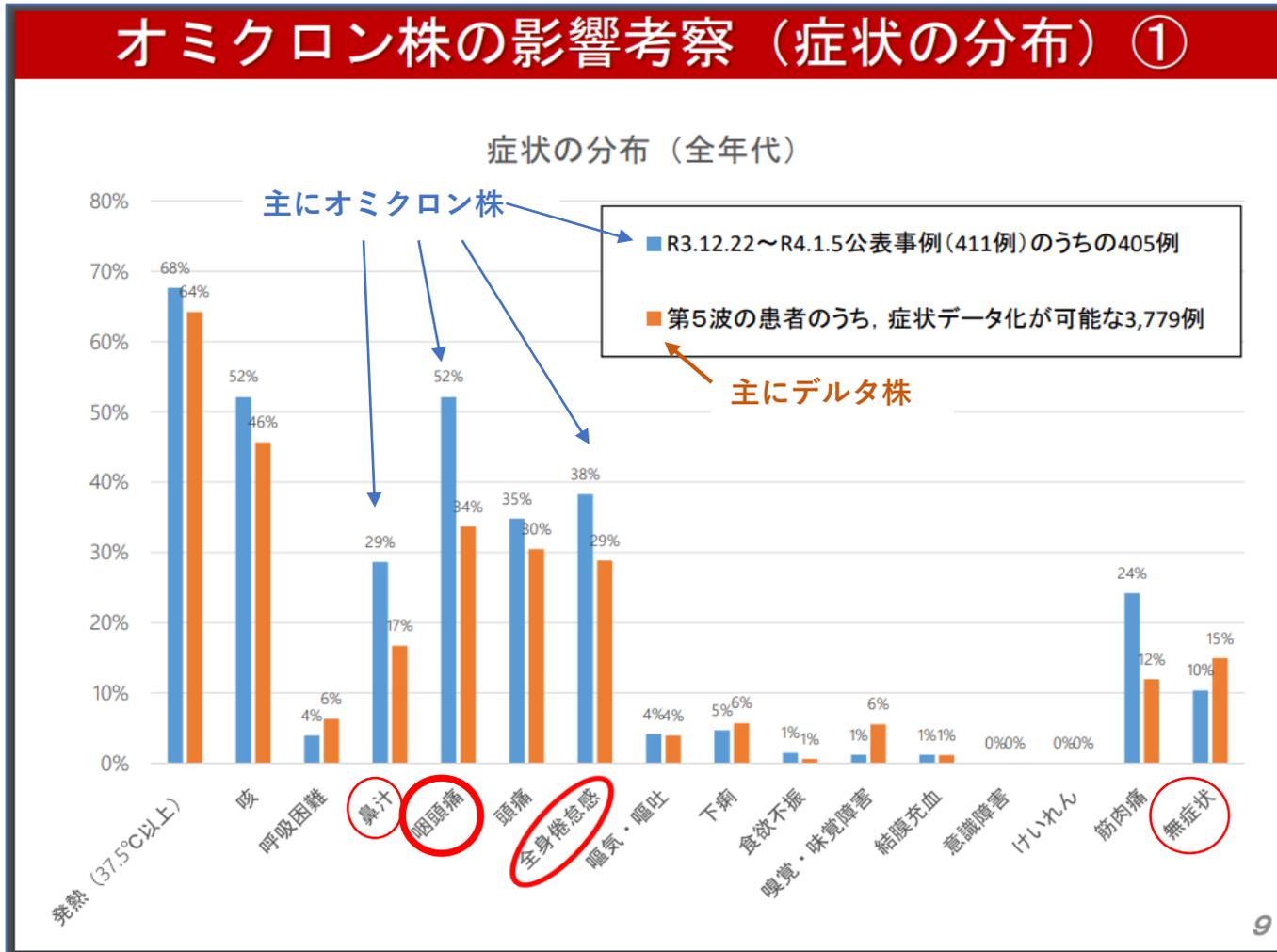


高齢者クラスターでは、発熱したら、抗原定性キットで迅速に調べ、速やかに治療薬を投与開始するのが理想。

特徴 上気道症状が主

(肺炎は少ない)

オミクロン株の影響考察 (症状の分布) ①



強い咽頭痛や
全身倦怠感



高齢者は、脱水
で体調悪化しや
すい



高齢感染者は
毎食前にコップ
1杯水分を多く
とる。

まとめ

- ◎潜伏期間、感染可能な時期、感染性がなくなる時期、を整理・理解して対応することが大切。(スライド2枚目)
- ◎それぞれの検査のカバーできる時期と特徴を理解することが大切。暴露直後にはPCRでも検出不可能な時期がある。(スライド3枚目、4枚目)
- ◎治療薬には、①発症後7日以内に使う抗ウイルス薬や抗体製剤と、②重症化しつつある際に使う抗炎症薬や抗凝固薬がある。①の投与開始は、早ければ早いほど効果が高い。(スライド5枚目)
- ◎オミクロンの致死率は、全体的にかなり低いですが、85歳以上の高齢者で高い。このため、上記治療薬①は、高齢者へ発症早期に投与することが望ましい。そのためには、抗原定性キットによる迅速な診断が役立つ。PCRなど精度の高い検査の結果を待っていると、①による治療効果が低下する。(スライド6枚目)
- ◎高齢感染者では、咽頭痛や全身倦怠感のために食事水分を採れなくなって、脱水で症状が悪化する場合がみられる。毎食前にコップ1杯の水分を多めにとることが効果的である。(スライド7枚目)
- ◎今回の資料はBA.1に関するものであるが、今後流行する可能性のあるBA.2でも考え方は変わらない。